

学生団体 Change

藤岡陽菜（人間形成系3回生）

キーワード：子ども，地域交流，イベント企画

1. 団体概要

学生団体 Change は地域課題を発見し、地域の課題を解決することや地域の輪を広げることを目的としており、人と人とのつながりを重視して活動している。主に小学生以下を対象としたイベントを企画・運営しており、学生が主体となって活動することで世代間交流の場となることを目指している。発足は2019年6月であり、2026年度のメンバー数は2回生4人、1回生11人の計15人である。

2. 2025年度の活動について

2025年度の学生団体 Change の活動は、大きく3つある。

1つ目は、公益財団法人子ども財団の協力のもと、明石おさいライオンズ子ども食堂、はなぞのサポーティングランチ、駅前子ども食堂などでボランティア活動を行った。前年度に引き続き、調理補助や配膳、片付けだけでなく、子どもたちと一緒に遊んだり会話をしたりする時間を大切に活動を通して、子ども一人ひとりに寄り添った関わりの重要性を実感し、安心して過ごせる雰囲気づくりを意識するようになった。

2つ目は、コープこうべ第7地区本部が主催する様々なイベントにボランティアとして参加した。これらの活動を通して、地域活動に関する知識を深めるとともに、今後の団体活動に活かすことのできる多くの経験を積むことができた。大きく以下の2つの活動をおこなった。

① 坊勢島漁業体験（姫路・家島）

「坊勢漁業協同組合」の方々のご協力のもと、船上での底引き網漁の見学や魚の選別体験、坊勢島での中間育成施設や冷蔵施設などの見学を行った。学生は、子どもたちの安全確保の補助や配布資料の配付を担当し、イベントが円滑に進むよう努めた。学習会で得た知識や気づきは、3つ目の活動である学生主体のイベント企画にも活かすことができた。

② 買い物クッキング教室（コープ姫路砥堀）

コープこうべの調理室にて、クッキングサポーターの皆さんと協力しながら、「はじめてのお買い物&クッキング」が実施された。子どもたちは、買い物リストに書かれた4つの商品を店内で探し、自分で会計にも挑戦した。その後、購入した食材を使っておにぎりや味噌汁などを調理した。子どもたちの「できた！」という喜びの声や、真剣に取り組む表情が印象的で、成功体験を支える活動の大切さを感じた。



写真1 子どもたちが買い物する様子

3つ目は、学生団体 Change とコープこうべ第7地区本部が共催し、12月13日に兵庫県立大学環境人間学部にてイベントを実施した。「～自然のかけらを使って～世界に一つの木の壁掛けプレートづくり」と題し、海や森林などの自然について楽しく学んだ後、親子で協力して木の壁掛けプレート作りを行った。イベント開催にあたっては、事前に兵庫県立国見の森公園や森林組合の方々にお話を伺った。国見の森公園では、壁掛けプレートの作り方や子どもへの教え方を学び、森林組合では、兵庫県の森林について詳しく教えていただき、その内容をイベント内のクイズに活用した。多くの方々の協力のもと開催された本イベントでは、子どもたちがそれぞれ個性あふれる作品を完成させ、学生や保護者と一緒にアイデアを出し合いながら楽しむ姿が見られた。また、イベント終了後も、キャンパス内のイチョウの葉を使って団体メンバーと子どもたちが遊ぶ様子が見られ、イベントを通して自然な交流が生まれたことを実感した。保護者の方から、「こん

なに遊んでもらえるのは大学生だからこそですね」とのお言葉をいただいたことが特に印象に残っている。アンケートでは、「クイズが楽しかった」、「また学生団体 Change のイベントがあれば参加したい」といった喜びの声を多くいただくことができた。



写真2 子ども達と壁掛けプレートを作っている様子

3. 活動を通して学んだこと

今年度の活動を通して、地域活動においては、単に支援を行うだけでなく、相手の立場に立って関わる姿勢が重要であることを学んだ。子ども食堂での活動では、食事の提供を手伝うことだけが目的ではなく、子どもたちが安心して過ごせる空間をつくるのが大切であると実感した。子ども一人ひとりの様子に目を向けながら声をかけたり、一緒に遊んだりすることで、子どもたちが心を開いてくれる場面

も多く見られ、関わり方一つで場の雰囲気が大きく変わることを学んだ。

また、コープこうべ第7地区本部が主催する地域イベントへの参加を通して、地域活動は多くの関係者の協力や入念な準備によって成り立っていることを実感した。イベント当日は目立たない役割であっても、安全面への配慮や円滑な進行を支える重要な役割であることを理解した。学生として参加する立場であっても、自分の行動一つが全体に影響を与える可能性があるため、責任感を持って行動することの大切さを学んだ。

さらに、学生団体 Change が主体となって企画・運営したイベントでは、参加者の反応を見ながら進行を調整することや、その場の雰囲気に合わせて柔軟に対応することの難しさも感じたが、イベント終了後に参加者から「楽しかった」「また参加したい」といった声をいただけたことで、学生だからこそできる地域への関わり方があると感じた。

これらの経験を通して、地域活動における学生の役割は、支援する側として活動するだけでなく、人と人をつなぎ、場を和らげる存在であることだと考えるようになった。今年度で得た学びを今後の活動にも活かし、より多くの人々が安心して参加できる地域交流の場づくりに主体的に取り組んでいきたいと考えている。